

## ■第2回会議の記録

日 時：令和6年3月27日(水)14時～15時30分

場 所：池田市役所3階 府小会議室

出席者：尾崎委員（会長）、南野委員（副会長）、堀口委員、塩屋委員、山本委員、  
西田委員、樽谷委員、五十嵐委員、武田委員、安岡委員、安原委員、尾上委員、  
瓦谷委員、西坂委員、村上委員

次 第：議題

- 1 計画の素案について
- 2 パブリックコメントの結果について
- 3 その他

### 会議の経過

○会長挨拶、会議の公開に関する報告（傍聴者0名）

○事務局より計画の素案、参考資料について説明

#### 【会長】

- ・計画について何かご意見ご質問はないか。

#### 【委員】

- ・ゲートキーパーとして実践できる人材を育成するため、市民や関係機関、市職員向けにゲートキーパー研修を年1回開催すると載っているが、それを1回以上にして人数も50人以上にするということで、だいたい年に何回になるのか。

#### 【事務局】

- ・講師の都合もあるので、講師を招く以外にも内容を検討し、できる限り開催回数を増やすような取り組みができればと考えている。

#### 【委員】

- ・今回も資料に書いてあることだが、自殺者の特性としてきっかけは様々だが、上位5位の中の4位までが、最終的にうつ病を発症しての自殺となっている。うつ病から自殺ということにならないようにその前の気づきというものがどういう形でできたらいいか、少し皆様のお考えがあれば聞かせていただきたい。

#### 【事務局】

- ・計画では重点施策に、適切な精神科医療を受けられるようにするという項目を今回作成し、啓発活動のほか各種相談会や医師の方の講演会等も実施している。
- ・ゲートキーパーについては広報に載せてもらっても市民の方への周知が行き届いていないと感じており、今後の課題として一般市民の方にも啓発、広報していく必要があると思っている。

#### 【会長】

- ・周りにSOSを発信することがなかなかできない、周りに相談できる人がいないという環境にあるのかもしれないし、何かが原因でということもあると思う。

- ・無職の人だと生活保護を受けたりする可能性もないわけではないし、生活困窮者自立支援法の適用を受けている方もいると思う。いろんなタイプの方がいる中で、どういうところがその方にアプローチしているかは、人それぞれ違うと思う。一応、独居だったら民生委員さんが関わっているケースがあると思うので、その中で自殺がないということは、うまくサポートできている環境があること一つの理由と言えるかもしれない。

**【委員】**

- ・やはり学校でも、地域の中でも、自分の悩んでいること、困っていることを誰かに話ができるような相手、あるいはそういう雰囲気があれば、少しは減らしていけるのではないかという感じがする。今日出された計画は素晴らしいことで、これを進めていけばいいが、これ以外に考えるべきことは、困っていること、気になることを何でも自由に口に出せるような環境だ。学校では担任以外に付き合えるような先生も1人必要ではないかという話をしていだし、地域の中にもそういう場所があれば、例えば敬老会館の中で、お年寄りが困っているときに世間話をするだけで少し気持ちが和らぐということがあるかも知れない。

**【会長】**

- ・傾聴するのはなかなか大変だし、話ができる関係を作る、そういう心理状態になるところまで持っていくことも大変だろうと思う。そういう環境づくりをしていくことになるのかなと思う。

**【委員】**

- ・前計画の取組状況というところで取組状況の評価があったのか。なかなか判定は難しいと思うが、そこを何かわかる範囲で、効果があるので継続するとか評価しないと、今までの取組がどうだったかの判断が難しい。参考資料を見ると、自殺された方の理由として圧倒的に健康問題、病気の悩みが多い。そのほかの精神疾患というものも多く、こうしたところを重点的に取り組まなければならない。
- ・19歳以下の方は一番少ないが、若者に対する対策はしっかりやっていく必要がある。親子の問題や学校の問題、他にも病気の悩みをもつひともいるだろうし、数が少ないからというのではなく、しっかり対策をどうしたらいいか考える必要がある。高齢者は身体的な病気の悩みを持つ人が多いが、幸福感をどのように高めていくかだと思う。

**【委員】**

- ・不登校とかそういったお子さんの捉えというのが昔と変わってきており、それぞれの状況に応じて学びの場が提供されているような時代に変ってきている。そういった中でどうそういうご家庭、お子さんと学校がつながっていくかについては、地道に訪問などによってつながりを築いていくしかない。子どもの集団づくりとか学校での仲間づくり、教諭自身が積極的に関わっていくような研修を続けている。

**【会長】**

- ・今、学校の方ではメンタルヘルスや精神障がいに関する知識をつけるという学習指導要領に基づく教育が始まっていると思うが、そういうところに池田市の資源を使って当事者の方や指導員の方に話をしてもらおうということも、もしかしたら一つのやり方になると思うので、その辺を連携できたらいいと思う。

**【委員】**

- ・私どもの方では、児童家庭相談や要保護児童対策地域協議会など、児童虐待がらみの担当をしているが、子どもの家庭環境や家庭そのものの問題であることが多く、保護者の方々が疾病であったりするので、そういったところを職員の方も、児童虐待関係については相談員あるいは家庭支援員などがしっかり保護者のニーズやお子さんの状態を把握しながら医療ともつなげるというところで、ケースワーク、ソーシャルワークを行っている。
- ・社会的にも子どもを中心にということでこども基本法ができたり、権利擁護も今後ますます充実していく中でさらに注目を浴びるところだ。令和6年4月からは児童福祉法が改正され、こども家庭センターなど、そういった組織体制を作って集中的に対応するような体制を池田市も整えていっているの、引き続きそういったところを注視し関係機関と連携しながら進めていきたい。

#### 【委員】

- ・ゲートキーパーの話が出ていたが、市職員の方がどれだけ自殺リスクに気づく目を持つかというのがすごく大事なことだと思っている。自殺対策の担当部署とか福祉系の担当部署、経済困窮の方を発見できる国民健康保険の窓口や税金の窓口の方が気づいて必要があれば保健師につながるところが大事だと思っている。

#### 【会長】

- ・ゲートキーパー研修だけが自殺対策ではないが、非常に重要な位置づけだということは皆さん共通していると思う。まずいろんな電話相談できる窓口の広報の改善についてはもうしていただいたので、次はゲートキーパーをどう拡充していくかなど1つずつ取り組んでいく。先ほど数値目標になるものがないと効果を評価できないという意見があったが、なるべくわかりやすい形で評価できるようなものをこれから検討できればと思う。計画なので、どこまで進んだかがわかりやすい方がいいというのは確かにそう思う。

### ○事務局よりパブリックコメントについて資料説明

#### 【会長】

- ・パブリックコメントの出し方については、先ほど別の会議の中でも議論があったが、広く市民に周知ができるような形で、関心がある人だけがするのではないような形がこれからできればいいと思っている。よろしく願います。
- ・これについて何かご意見ご質問はないか。

#### 【会長】

- ・それではこの案をもって池田市自殺対策計画の最終案としたいが、よろしいか。（一同承認）それでは計画の最終案とさせていただく。事務局より連絡事項等があれば願います。

#### 【事務局】

- ・策定委員会としては今回が最後ということになる。本日のご意見も踏まえてこの素案を少し手直しさせていただき、最終的な自殺対策計画とさせていただく。今後は完成した計画に沿って関係機関の皆さんとも連携を図りながら、自殺対策を進めていきたいと思うので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 【会長】

・これをもって第2回自殺対策計画策定委員会を終了する。慎重なご審議に感謝する。

(以上)